



アルフレッサ ホールディングス株式会社

Fresh life for all.

すべての人に、いきいきとした生活を。

株主のみなさまへ

2016年3月期報告書

(2015年4月~2016年3月)

証券コード 2784

株主のみなさまへ



代表取締役社長

又井 泰三

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年4月1日付で代表取締役社長に就任いたしました。医療制度の改革などにより、当社グループを取り巻く環境が大きな転換期を迎えようとしている中、変化に先駆けた取り組みを徹底し、グループのさらなる発展に全力で努めてまいります。今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、当連結会計年度を振り返りますと、わが国における経済は、新興国および資源国等の成長鈍化に伴う輸出の減速や個人消費の足踏み等の弱さが見られるものの、緩やかな回復基調で推移いたしました。

医療用医薬品市場は、消費税率引き上げ後の需要減の影響がなくなったことに加え、新薬創出加算品や後発医薬品へのカテゴリーチェンジの進展や、新機序の抗ウイルス剤や抗がん剤、インフルエンザワクチンの拡大を背景として、8.3%の市場成長(クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社推定)となりました。

当社グループにおきましては、「13-15中期経営計画」の最終年度として、さらなる事業領域とエリアの拡大を進めてまいりました。

■ 13-15中期経営計画 グループ経営目標に対する成果

目 標		2016年3月期実績	
売 上 高	2兆6,000億円		2兆5,764億円
営業利益率	1.0%以上		1.76%
当期純利益率※	0.8%以上		1.36%
配 当	DOE：2.0%を目標		DOE：2.0%

※親会社株主に帰属する当期純利益率

医療用医薬品等卸売事業では、グループ内の事業統合や、関西エリアの物流拠点の再構築などを進め事業基盤を強化いたしました。

セルフメディケーション卸売事業では、株式会社茂木薬品商会を連結するなど、事業規模の拡大と、事業基盤の強化を進めました。

医薬品等製造事業では、医薬品原薬を製造するアルフレッサ ファインケミカル株式会社を連結して新たな領域に進出するとともに、エーザイ株式会社よりサンノーバ株式会社の医薬品製造販売事業を承継し、事業規模の拡大に取り組みました。

また2015年4月から、新たに医療関連事業のセグメントを設けて、調剤薬局事業を行う2社を連結いたしました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は2兆5,764億5百万円(前期比6.4%増)、営業利益は452億89百万円(前期比54.9%増)、経常利益は554億89百万円(前期比42.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益

は349億75百万円(52.6%増)となり、13-15中期経営計画で掲げたグループ経営目標についても、ほぼすべて達成することができました。特に利益率については、医療用医薬品等卸売事業における「流通改革」や、グループ全体でローコスト経営に取り組んだ結果、目標を上回ることができました。

本年4月からは、新たに策定しました中期経営計画「16-18中期経営計画 明日への躍進」がスタートいたしました。アルフレッサグループの理念体系をさらに具現化し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでまいります。

- ### 目次
- 1 株主のみなさまへ
 - 3 特集 16-18中期経営計画
 - 7 当期の業績
 - 9 TOPICS
 - 11 連結財務諸表(概要)
 - 13 株式情報
 - 14 会社概要／配当について

アルフレッサグループは、さらなる成長に向けて2016年4月から2019年3月までの新たな中期経営計画「16-18中期経営計画 明日への躍進」を策定いたしました。日本の医療制度は、高齢化がさらに進展する2025年に向けて大きな変革期に入ります。アルフレッサグループではこうした変化に先駆け、全社的な取り組みを進めてまいります。

グループ経営方針

“Challenge 3”

① グループ一体となった事業強化

② 健康・医療関連領域の拡充

③ 環境変化に先駆けた事業モデルの変革

- ① 各事業セグメントが持つ強みを束ねてグループシナジーを発揮することにより、アルフレッサグループブランドの浸透を図ります。
- ② 医療用医薬品の製造から卸、調剤薬局にいたるサプライチェーンを中心とした事業モデルを強化するため、健康・医療関連領域を中心に経営資源を投入してまいります。
- ③ 事業環境の変化に先駆けて各事業セグメントの変革を進め、さらに国内の強い事業モデルで培ったノウハウを梃子にした、アジアを中心とする海外事業の拡大も進めてまいります。

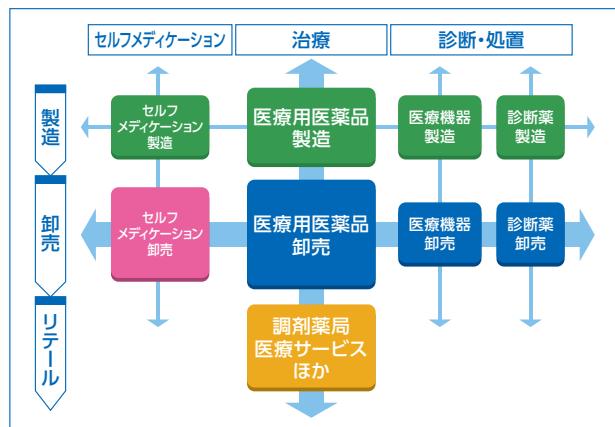
グループ経営目標

売上高	2兆7,000億円
営業利益率	1.5%以上
当期純利益率※	1.2%以上
投資計画	累計1,000億円規模
ROE	8%水準
株主還元方針	DOE 2.0%以上

※親会社株主に帰属する当期純利益率

「ヘルスケアコンソーシアム」の実現

当社グループでは、グループ理念体系に「健康に関するあらゆる分野の商品・サービスを提供できるヘルスケアコンソーシアムをめざします」と定めております。16-18中期経営計画でも引き続き、健康・医療関連領域における事業領域の拡充を進めてまいります。



医療用医薬品等卸売事業

営業改革・物流改革

グループ全体最適の追求

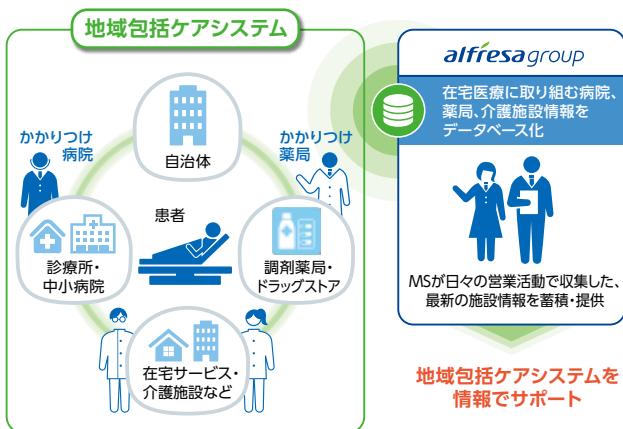
流通改革の推進

医療用医薬品No.1卸として、今後の医療制度の変化に先駆けた収益構造のさらなる強化を図ります。営業機能の改革や、物流の効率化を進めるとともに、地域包括ケアシステムや、スペシャリティ医薬品流通などの取り組みを進めてまいります。また、引き続き業界の最重要課題である「流通改革」に取り組んでまいります。

▶ 地域包括ケアシステムへの取り組み

今後の医療制度の大きな変革の一つである「地域包括ケアシステム」に対しては、当社のMS※が日々の営業活動で収集した情報をもとに、地域包括ケアシステムの構築をサポートしてまいります。

※ MS=マーケティングスペシャリスト



▶ スペシャリティ医薬品流通の対応強化

今後拡大が見込まれるスペシャリティ医薬品に対しては、当社グループのエス・エム・ディ株式会社を中心に、全国に広がる販売ネットワークと、高い輸送技術を強みに、対応を強化してまいります。

スペシャリティ医薬品流通会社	
エス・エム・ディ株式会社	
 	
出資企業	アルフレッサ (60%) 富田薬品 (20%) モロオ (20%)
▶ 全国販売ネットワーク	
アルフレッサグループの医療用医薬品卸売会社8社に、提携企業の富田薬品(株)、(株)モロオを加え、北海道から九州まで日本全国の流通をカバー	
▶ 高い輸送技術	
高度温度管理物流などにより、スペシャリティ医薬品の流通を担う	

セルフメディケーション卸売事業

さらなる事業基盤の強化

付加価値営業の強化

事業基盤の強化に取り組むとともに、特色のある専売商品の発掘・育成や、グループの医療用医薬品卸売会社と連携した調剤薬局への販売強化、ネット販売拡大への対応などを進めてまいります。

医薬品等製造事業

安心・安全・誠実なモノづくりの推進

製造受託・医薬品原薬事業の推進

製品ラインナップの拡充と販売力強化

海外事業の拡充

「医薬品」「診断薬」「医療機器」などに加え、新たに強化した「製造受託」「医薬品原薬」の領域で、さらなる事業拡大、生産能力強化に向けた投資などを行ってまいります。

医療関連事業

収益力の向上

業態変化への取り組み

ヘルスケアコンソーシアムの実現に向けて、医療・健康に関する事業領域の拡充を進めております。調剤薬局事業では、効率化・機能強化により収益力を向上させていくとともに、医療制度の大きな変化の中で求められる業態変化にも対応してまいります。

さらなる付加価値の
追求(+α)

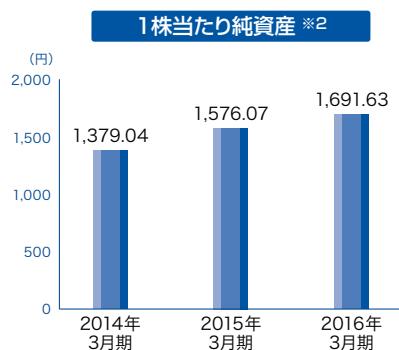
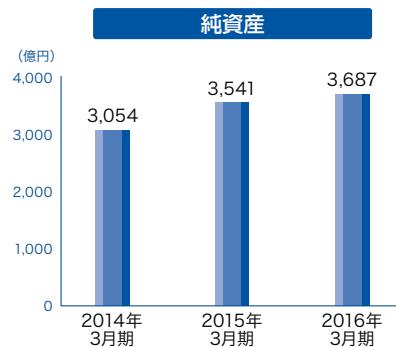
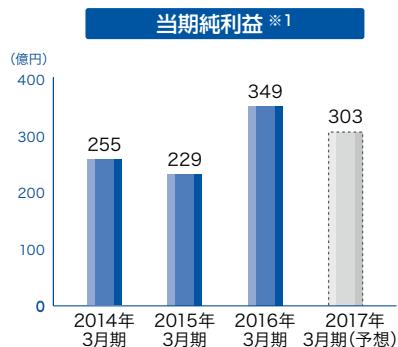
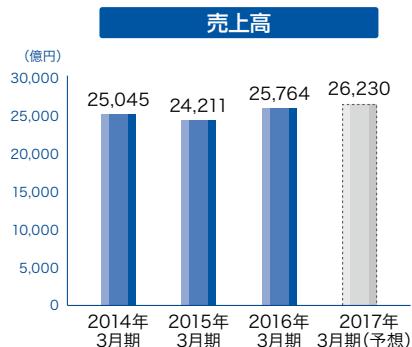
● 健康サポート薬局

● かかりつけ薬局

● 従来

当期の業績

連結業績ハイライト



※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を掲載しております。

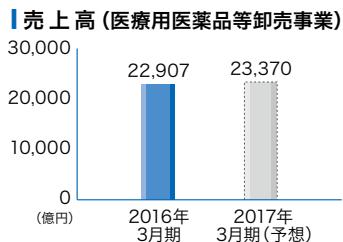
※2 2014年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2014年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し1株当たり純資産および1株当たり当期純利益を算定しております。

事業別の業績

医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、グループ内の事業統合を進め、各地域においてお客様ニーズに幅広くお応えする体制を強化いたしました。またアルフレッサ株式会社は、本年5月に京都医薬品センターを稼働するとともに、本年3月、完全子会社でスペシャリティ医薬品流通事業を行うエス・エム・ディ株式会社の株式を20%ずつ、富田薬品株式会社ならびに株式会社モロオに譲渡いたしました。

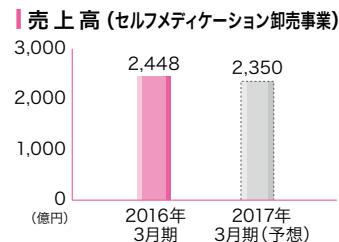
当連結会計年度の売上高は2兆2,907億83百万円(前期比3.9%増)、営業利益409億97百万円(前期比49.2%増)となりました。なお売上高には、セグメント間の内部売上高118億58百万円(前期は43百万円)を含んでおります。



セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、消費税率引き上げ後の需要減の影響がなくなったことに加え、外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要を背景に上期を中心に一般用医薬品、健康食品等が好調に推移したほか、株式会社茂木薬品商會を連結したこと等により増収となりました。

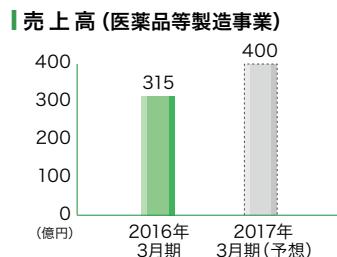
当連結会計年度の売上高は2,448億69百万円(前期比22.5%増)、営業利益12億81百万円(前期比363.4%増)となりました。なお売上高には、セグメント間の内部売上高7億78百万円(前期比41.8%増)を含んでおります。



医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、2015年4月に医療用医薬品原薬を製造するアルフレッサ ファインケミカル株式会社が発足いたしました。またエーザイ株式会社の連結子会社であるサンノーバ株式会社の医薬品製造販売事業を承継して、本年4月より当社子会社として営業を開始いたしました。

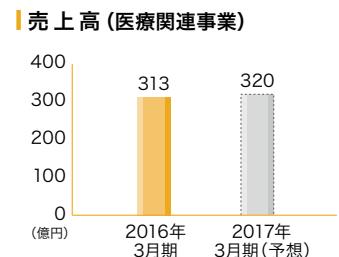
当連結会計年度の売上高は315億48百万円(前期比21.2%増)、営業利益18億3百万円(前期比37.0%増)となりました。なお売上高には、セグメント間の内部売上高94億77百万円(前期比1.3%増)を含んでおります。



医療関連事業

ヘルスケアコンソーシアムの実現に向けて、当連結会計年度より医療関連事業のセグメントを新設し、調剤薬局事業を行うアポロメディカルホールディングス株式会社と株式会社日本アブックを連結いたしました。

当連結会計年度の売上高は313億16百万円、営業利益11億13百万円となりました。



TOPICS

完全子会社間の医療用医薬品等卸売事業の事業譲渡契約を締結

当社の完全子会社であるアルフレッサ株式会社は、同じく完全子会社であるティーエスアルフレッサ株式会社との間で、九州エリアにおける医療用医薬品等卸売事業を2016年7月1日付で譲り受ける事業譲渡契約を締結いたしました。アルフレッサグループは、医療用医薬品等卸売事業における全国

ネットワークの拡充を目指し、その一環として九州エリアの営業基盤の強化を推進しております。九州エリアにおける医療用医薬品等卸売事業を統合することで、さらなる事業強化を図り、お客様のニーズに幅広くお応えするとともに、お客様満足の上を目指してまいります。

アルフレッサ(株)の京都医薬品センターが稼働

アルフレッサグループは物流機能の高度化をめざし、顧客ニーズとローコストオペレーションをバランスよく満たす物流拠点の構築を推進しております。その一環として、アルフレッサ株式会社の京都医薬品センターを2016年5月に稼働いたしました。多くの医療機関が集まる京都の中心部に位置し、豊富な在庫を有することで、迅速で安定的な物流を展開

することが可能となります。同センターには7つの営業拠点を集約し、物流の効率化を図るとともに、地域に密着した安心・安全な医薬品流通によって、生活者のみなさまの健康に貢献してまいります。

アルフレッサ株式会社 京都医薬品センター

所在地：京都府京都市伏見区中島北ノ口町25番地
敷地面積：7,827㎡
建築面積：5,435㎡
延床面積：21,115㎡
構造：鉄骨造4階建
保管品目：25,000品目



京都医薬品センター外観

■ スペシャルティ医薬品流通会社の株式を譲渡

アルフレッサ株式会社は、同社の完全子会社でスペシャルティ医薬品流通を行うエス・エム・ディ株式会社の株式を、九州エリアで医薬品卸売業を行う富田薬品株式会社と、北海道エリアで医薬品卸売業を行う株式会社モロオに対してそれぞれ20%ずつ譲渡いたしました。

アルフレッサグループは、高度温度管理物流等の高い輸送技術が必要とされるスペシャルティ医薬

品流通を重点分野の一つとしております。当社グループではエス・エム・ディ株式会社を中心となり、全国でスペシャルティ医薬品の物流を既に展開しておりますが、今回の株式譲渡により富田薬品株式会社および株式会社モロオの両社との連携をさらに強化し、スペシャルティ医薬品を必要とする全国の患者、医療機関や、医薬品メーカーのニーズに応えて一層の満足度向上を図ってまいります。

■ エーザイ(株)より医薬品製造販売子会社の事業を承継

当社は、エーザイ株式会社の連結子会社であるサンノーバ株式会社の医薬品製造販売事業を承継し、2016年4月1日に当社の完全子会社として営業を開始いたしました。

今回の事業承継により、エーザイグループ各社からの受託製造を承継すると同時に、アルフレッサグ

ループで医薬品、診断薬、医療機器、医薬品原材料等の製造・輸出入・販売を行うアルフレッサファーマ株式会社の持つ生産能力と合わせて、アルフレッサグループにおける製造受託事業の生産能力を拡充し、医薬品等製造事業の基盤を一層強化してまいります。

サンノーバ株式会社の概要

(2016年4月1日現在)

所在地：群馬県太田市世良田町3038-2
代表者：代表取締役社長 竹川 徹
事業内容：医薬品、医薬部外品等の研究、開発、製造、販売
敷地面積：約58,000㎡
延床面積：約35,000㎡
生産剤形：錠剤、カプセル剤、顆粒剤、液剤、軟膏剤
従業員数：345名



サンノーバ株式会社外観

連結財務諸表(概要)

連結貸借対照表

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科目	前期	当期
	2015年3月31日現在	2016年3月31日現在
資産の部		
流動資産	951,940	965,135
現金及び預金	105,311	118,174
受取手形及び売掛金	597,779	612,182
有価証券	62,000	42,000
たな卸資産	131,328	133,270
その他	55,519	59,507
固定資産	268,841	288,359
有形固定資産	118,766	130,489
建物及び構築物	38,100	50,133
土地	63,850	64,727
その他	16,815	15,628
無形固定資産	10,650	14,952
のれん	5,192	7,337
その他	5,458	7,615
投資その他の資産	139,424	142,917
投資有価証券	124,410	125,409
その他	15,013	17,507
資産合計	1,220,781	1,253,494

科目	前期	当期
	2015年3月31日現在	2016年3月31日現在
負債の部		
流動負債	819,571	835,512
支払手形及び買掛金	784,954	795,006
短期借入金	259	679
その他	34,358	39,826
固定負債	47,086	49,254
長期借入金	1,476	1,309
退職給付に係る負債	15,051	17,762
その他	30,558	30,181
負債合計	866,658	884,766
純資産の部		
株主資本	298,308	311,342
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	103,799	103,121
利益剰余金	177,061	205,784
自己株式	△1,006	△16,017
その他の包括利益累計額	54,210	55,199
その他有価証券評価差額金	56,512	59,546
繰延ヘッジ損益	2	△13
土地再評価差額金	△4,211	△4,143
為替換算調整勘定	205	175
退職給付に係る調整累計額	1,701	△364
非支配株主持分	1,603	2,185
純資産合計	354,123	368,727
負債純資産合計	1,220,781	1,253,494

連結損益計算書

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科 目	前 期	当 期
	2014年4月1日から 2015年3月31日まで	2015年4月1日から 2016年3月31日まで
売上高	2,421,162	2,576,405
売上原価	2,255,406	2,379,210
売上総利益	165,755	197,194
販売費及び一般管理費	136,527	151,905
営業利益	29,228	45,289
営業外収益	10,412	10,944
営業外費用	655	744
経常利益	38,985	55,489
特別利益	238	519
特別損失	1,992	1,913
税金等調整前当期純利益	37,231	54,094
法人税、住民税及び事業税	13,020	18,572
法人税等調整額	1,285	141
法人税等合計	14,306	18,714
当期純利益	22,925	35,380
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益	22,922	34,975
非支配株主に帰属する当期純利益	2	405

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科 目	前 期	当 期
	2014年4月1日から 2015年3月31日まで	2015年4月1日から 2016年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,813	37,836
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,583	△15,245
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,011	△25,996
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	△16
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	21,262	△3,422
現金及び現金同等物の期首残高	138,819	160,265
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1,618
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	184	0
現金及び現金同等物の期末残高	160,265	158,462

株式情報 (2016年3月31日現在)

株式の概況

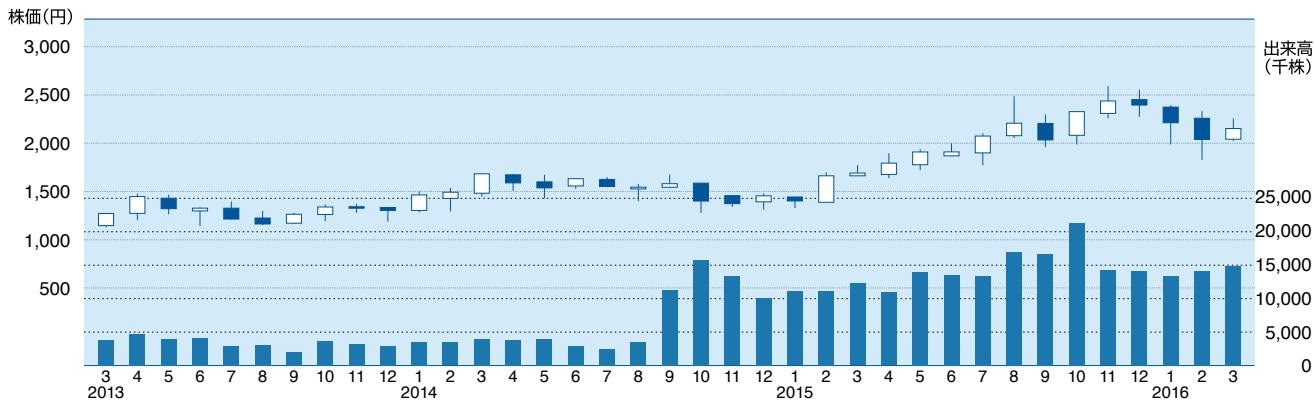
発行可能株式総数	540,000,000株
発行済株式総数	235,017,600株
株主数	10,340名

大株主

順位	氏名または名称	所有株式数 (千株)	議決権比率 (%)
1	アルフレッサ ホールディングス株式会社	18,337	—
2	アルフレッサ ホールディングス社員持株会	6,248	2.9
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,098	2.8
4	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,485	2.5
5	エーザイ株式会社	4,602	2.1
6	NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	4,233	2.0
7	みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 第一三共口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	3,908	1.8
8	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	3,621	1.7
9	第一三共株式会社	3,202	1.5
10	MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	3,131	1.4

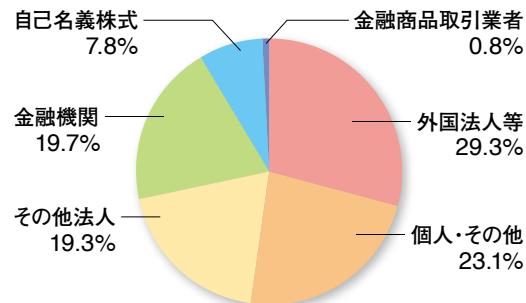
※所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

株価・出来高の推移 (東京証券取引所)

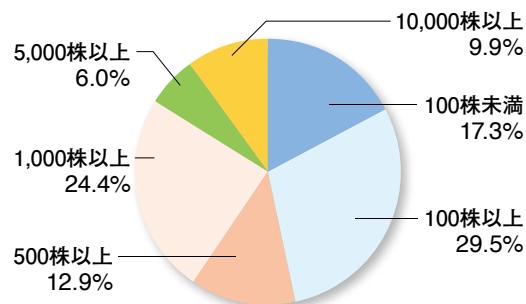


※2014年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、過去に遡って当該株式分割を反映した株価を記載しております。

所有者別株式分布状況



所有株式数別株主分布状況



会社概要 (2016年3月31日現在)

■ **会社名** アルフレッサ ホールディングス株式会社
(Alfresa Holdings Corporation)

■ **本社所在地** 〒100-0004
東京都千代田区大手町一丁目1番3号

■ **従業員数** 11,788名(連結)

■ **設立年月日** 2003年9月29日

■ **事業の内容** 医薬品、医療用検査試薬、医療機器・
用具の卸販売、製造販売、輸出入等
ならびに調剤薬局の経営とこれらに
附帯する事業を行う子会社の管理等

■ **資本金** 18,454百万円

■ 取締役および監査役(2016年6月28日現在)

代表取締役会長	石黒 傳六
代表取締役副会長	鹿目 広行
代表取締役社長	久保 泰三
取締役	二宅 俊一 (副社長)
取締役	泉 康樹 (専務執行役員)
取締役	長谷部 省三
取締役	篠原 恒夫
取締役	増永 孝一
取締役	荒川 隆治
取締役(社外取締役)	木村 和子
取締役(社外取締役)	寺井 公子
常勤監査役	桑山 賢治
監査役(社外監査役)	野口 祐嗣
監査役(社外監査役)	神垣 清水

配当について

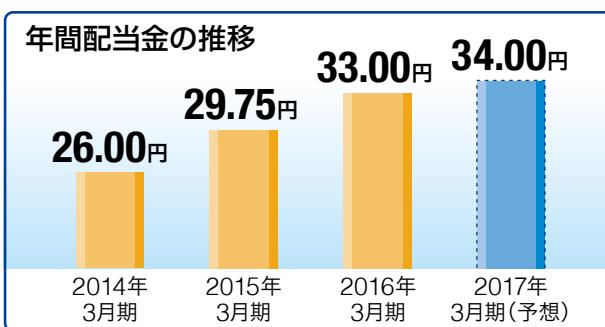
配当につきましては、純資産配当率(DOE)*2%を目途に業績を考慮しながら決定しており、2016年3月期の期末配当金は17円とし、中間配当金16円とあわせて年間配当金33円といたしました。

次期配当につきましては、純資産配当率(DOE)2%以上を基本方針としております。これに基づき2017年3月期は中間配当金17円、期末配当金17円で年間配当金34円を予定しております。

※純資産配当率(Dividend On Equity)

配当金総額を純資産で除した数値で、株主からの出資金や事業を通じて得た利益の蓄積である純資産という「元手」に対し、どれだけの金額を配当という形で株主に還元しているかをみる経営指標です。純資産配当率は、当期純利益*を純資産で除した「自己資本当期純利益率*」と、配当金総額を当期純利益*で除した「配当性向」を掛けて算出することもできます。(この計算における純資産とは、貸借対照表の純資産の部より非支配株主持分を除いたものです。)

*親会社株主に帰属する当期純利益



※過去に遡って株式分割を反映した配当金を記載しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当の基準日	3月31日
中間配当の基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同お問い合わせ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	日本経済新聞

株主のみなさまからの声をお待ちしております。

当社では、株主のみなさまからのご意見・ご要望をお受けしております。

ご意見・ご要望がございましたら、お電話やおハガキ、またはeメール(ir@alfresa.com)でお気軽にお寄せください。当報告書に関するご意見もお待ちしております。

アルフレッサ ホールディングス株式会社 財務企画部 広報IR室
〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目1番3号 大手センタービル23階
TEL:03-5219-5102 FAX:03-5219-5103



本誌は、FSC®認証紙と、植物性インキを使用しています。

株式に関する手続き

単元未満株式の買増・買取、住所変更などの各種お手続きについて

原則として、株主さまが口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)において承ることとなっております。当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

■ 単元未満株式の買増・買取制度について

当社では、1単元(100株)未満の株式をご所有の株主さまに対し、ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく「単元未満株式買増制度」、ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく「単元未満株式買取制度」を実施しております。

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きについて

当社株主名簿管理人である、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

■ 特別口座について

証券会社等の口座に入庫されていない株券につきましては、当社が開設した「特別口座」において管理されています。「特別口座」では譲与・譲渡のお手続きができませんので、売買するには証券会社に同一名義の口座を開設し、株式振替を行うお手続きが必要となります。

未受領の配当金のお支払いについて

三菱UFJ信託銀行本支店においてお取り扱いいたします。

配当金に関するお知らせについて

当社では、郵便ハガキによる「期末配当金に関するお知らせ(中間配当金の支払に関する取締役会決議ご通知)」の送付を廃止いたしました。当社ホームページへの掲載によりご案内しております。

ホームページ <http://www.alfresa.com/>